

ポリペク後の生活指導パンフレットの改訂～統一して患者指導を目指して～

○新垣理佐子 新城亜希子 屋良ひろみ

はじめに

当院は病床数 470 床で、地域の健康と発展を担うことを使命にしている地域密着型のがん拠点病院である。当内視鏡センターでは、上部・下部・特殊・緊急を含む年間約 10000 件の内視鏡検査・治療を行っている。平成 25 年 1 年間で行われたポリペクトミー（以下ポリペク）278 件のうち、日帰り件数が 168 件で 60%に対し、コールド・スネア・ポリペクトミー（以下 CSP）導入後の平成 29 年 1 年間で行われたポリペク件数は 640 件で、その内日帰り件数は 557 件 72%と日帰りポリペク件数が増加している。また、日帰りポリペク患者の対象年齢 70 歳以上が 27%から 35%に上昇している。日帰り患者の増加傾向と高齢化に伴い理解度や患者背景に合わせた説明が求められてきた。このことから今まで使用していたパンフレットでは口頭で追加説明する事項が多く、検討する必要性があった。今回患者及び当内視鏡スタッフにアンケート調査を行い、パンフレットを見直したのでここに報告する。

目的

安全に自立した日常生活ができる。

対策・方法

CSP 後の患者に対して以前のパンフレットを使用しながら説明を行い、患者が必要として

いる情報を引き出す。また、術後の日常生活に対する不安や気になる事を調査した。

内視鏡スタッフに対しては、CSP 後パンフレットの活用状況や追加説明している事をアンケート調査した。双方のアンケートを元にパンフレットを分かりやすく作成し直し、内視鏡スタッフが統一した説明ができるようにした。

#### 結果・考察

新たな CSP 導入より帰宅後の患者が増える中、パンフレットを用いて説明してもイメージしにくく十分な理解が得られない現状であった。またパンフレットは平成 20 年に作成されたものであり口頭での追加説明も多かった。その中で高齢者の増加に伴い患者がイメージしやすく、理解度や個々の生活形態に合わせた説明が必要であると考えた。不安軽減につながる帰宅後の生活指導を検討する中でイメージしやすい具体的な項目に沿って説明する事でスムーズな患者指導ができるようになった。また業務の短縮につながった。パンフレット改定後、患者からの質問や電話での問い合わせも減少した。

#### 結語

提供する手技や、高齢化社会・ライフスタイルの変化によりパンフレットの内容も適宜見直す必要がある。今後も統一した質の高い看護を提供できる、より良い環境作りに努めていきたい。